

芦屋ユネスコ協会
事務局 平650-8501 芦屋市精道町
7番

連絡手段: 電話・FAX
生産学習課内

TEL 0797-38-2091
FAX 0797-38-2089

連絡手段: 電話・FAX
E-mail: usuyunesko@nifty.com

発行: 芦屋ユネスコ協会
会長 広瀬忠子



AU通信

「戦争は心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならぬ」

新年の挨拶

芦屋ユネスコ協会 会長 広瀬忠子

芦屋ユネスコ協会のみなさま、

新年あけましておめでとうございます

皆様お元気で新しい年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

歌会初めの勅題に「笑み」とございましたが、今年はほほ笑みの多い年でありますようお祈り致します。

干支では、申・酉の次で今年は戌の年です。

私の偏見ですが、元日にふと昔話の桃太郎の鬼退治のお供をした犬・猿・雉の3匹のストーリーを現代風に考えてみました。

申(猿)は知恵があり桃太郎のシンクタンクとして、作戦の企画・段取りを考え、参謀の役目を担当したのではないか? 酉(鳥)の中でも雉は特に鋭い感覚で高く飛んでいち早く

情報をキャッチする仕事を担って、今の時代ならデーターを基にITを駆使する役目を受け持ち、そして戌(犬)は忠実で、勇敢に実行する行動力、これら3匹が目的に向かってそれぞれの持分を活かし、総力を結集して、正義を貫くと云うことを物語の中で教えているのではないでしょうか。一人の力は小さくとも志を集めて行動することに意義があると思います。

さて、今年は芦屋ユネスコ協会を再発足して6年になり、皆様のご協力によりまして活動も定着して参りました。書き損じ葉書を集めて世界の文字が読めない人々の為の寺子屋運動・世界遺産を守る為の協力・世界平和を祈る行事などを始め、色々ユネスコ活動をコミュニケーションを通じて活発に広げて行きたいと存じます。

何卒今年もユネスコ活動に一層のご支援ご協力をお願い申し上げると共に、皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶と致します。



講演会＆親睦会

芦屋ユネスコ協会講演会＆親睦会

昨年末、2005年12月20日（火）午後6時から、ホテル竹園において、来賓・会員65名の参加を得て2005年度「年末講演会＆親睦会」が盛大に開催されました。

広瀬会長挨拶の後の講演会は、外務省特命全権大使（関西担当）の天江貴七郎 前ウクライナ大使により《私の外交行脚：世界を揺るがした三つの革命》と題して、ご自身が外交官として現地で遭遇された三つの革命「イラン・イスラム革命」（1978～79）、「エリツインの革命とソ連の崩壊」（1991）、「ウクライナのオレンジ革命」（2004～05）について判り易く解説頂きました。それぞれの革命の背景とその渦中にあつた一般市民の生活と感情にも触れられ、政治の安定と平和の大切さを強調されました。こうした経験からユネスコ運動がどれほど大切な物かを訴えられ、芦屋ユネスコ協会の更なる活動を期待する旨のご要望がありました。



その後、今年もユネスコ運動に賛同されて活動資金をご寄付頂いた「ゴルフ N・P・G・プロインストラクターズ協会様」の山下義房会長に感謝状を贈呈しました。

中山市長による乾杯で始まったディナータイムは和やかな懇談とともに美味しいお料理に舌鼓をうち、ティータイムから始まった恒例のbingoゲームは今年も大いに盛り上がり、会員提供の景品を勝ち取り、親睦会を大いに楽しみました。この収益金は、年間を通じて頂戴した寄付金と共に、寺小屋運動（非識字者への学校建設）と世界遺産保護などのユネスコ運動に有効に活用させて頂くことになっています。

このあとは、河上せつ子 監査委員のリードで「ホワイト・クリスマス」と「きよしこの夜」を全員で合唱し、藤原教育長による閉会の挨拶があり、最後には、ライトダウンした中、全員で輪になって「螢の光」を歌い、2005年年末の行事を無事終えることが出来ました。

ご協力に感謝致します。



《事務局長 山田利郎》

<掲載内容>

- 1頁…タイトル、廣瀬会長による新年の挨拶
- 2頁…山田事務局長による年末講演会＆親睦会の報告記事
- 3～4頁…今期総会時講演会のマルティン・ディアス講師による講演内容記事

Francisco J.Martin Diez

現在、セイドー文化センター（キリスト教カトリック教精神を基盤に青少年活動を組織する）の最高責任者として様々な青少年活動を指導する。セイドー外国语学院、他大学でスペイン語を教える。

- 5頁…森交流部長による世界遺産見学バスツアーの案内記事、世界遺産ミニクイズ
- 6頁…各部会、協調連携団体及び事務局よりの報告ならびに予告記事

「スペイン人が見た日本」

私の生いたち

私はスペインの首都マドリードから北西に200kmカステリア地方の美しい町バジャドリッドに生まれました。この地域はもっとも美しいスペイン語が語られる町です。十一人の大家族の中の九人兄妹の六番目です。お父さんはスペイン空軍のパイロット、お母さんは主婦として働く幸せな家族です。

私は小学生のときにザビエルの話を聞いて日本について興味を持ち始めました。あの頃の子ども達の間ではミニカーのレースが人気がありました。私はミニカーを二台持ち友達とよく遊びましたが、ミニカーの名前は日本の九州と龍谷とつけました。ミニカーレースにはよく勝ってとっても楽しみでした。大きくなり、映画「七人の侍」を見ると日本への興味がもっと、もっと強くなり、ああ！自分の目で侍を見たいな！と思うようになりました。大学生になるとその望みはやがて薄くなりました。マドリード大学の医学部の大学生となると家族から離れて自由になり、あまり勉強せず、よく遊びました。教会にも行かなくなつて二年間ぐらいの間はどうしようもない気ままな生活を送りました。その危機はつづき、両親には云いえないほどの毎日の生活でした。

神の啓示

二十三歳のある日、「イエスの御心の教会」の前を通ったとき、心の中に“入りなさい”という言葉が聞こえて衝撃を受けました。中ではミサが進んでいました。ミサに参加すると聖体拝領のときには泣き出しました。ミサは終わりました。それから告解の小部屋に入って神父様から許しの秘蹟を頂きました。心に大きな喜びを持って家に帰ると、これまでの生活の全てを反省し、今日の出来事を両親に報告しました。回心して神様の道に進むことを決心しました。十一月の初めでした。十二月八日は、無原罪の聖母の祝日、私は生活の中で神様に自分の心を全て捧げました。大学生としての喜びが一杯でしたが、目立たない生活がつづきました。

大学を卒業する前に日本に行くチャンスが生まれました！間違いなく今まで私を導いてくれた神様の呼びかけでした。両親の祝福を受けて喜んで1982年に日本に出発しました。そのときから今まで教師として働き、色々と学び、日本人の人と喜びを分かち合ってがんばっています。日本はとっても好きです。

スペインと日本の絆

スペインと日本の絆は深いものがあります。歴史から見れば昔から宣教師の仲立ちで日本とスペインは近くになりました。それを機に日本人もスペインに興味を持ちスペインまで旅に出かける人がありました。四人の少年使節の話は有名ですが、現在、ハポン（日本）と言う苗字を持っているスペイン人は少なくありません。毎年、セビリアのホテルで何百人のハポンさんが集まるそうです。言葉で云うとカステラ（Castilla・城）、天ぷら（Temporas・四旬節）、おかげさまで、など、は日本に根付いたスペインの文化や言葉です。逆にスペインにも日本語からいくつの言葉を借りています：caqui（花器）、biombo（屏風）、最近ではkaraoke（カラオケ）、tsunami（津波）kamikaze（向こうみず）もよく使われます。私の友達はスペイン語のhablar（アブラル、喋る）は日本語の「油を売る」から生まれた言葉だと云います。いかがでしょうか。

日本、大きな発見！

日本は私が持っていた夢よりも素晴らしい国です。スペインと日本は似ているところがあります。たとえば、ペインでアジア系の人々は皆“中国人”です、日本では白系の外国人は皆、“アメリカ人”です。関西の人々とアンダルシアの人々の性格や話し方はよく似ています。私から見れば大阪の人々は日本のアンダルシア人です。

日本に来て初めて見たスポーツは野球と相撲でした。野球は遅くて、辻褄の合わないスポーツと感じで最初はあまり興味がありませんでしたが、阪神タイガースのおかげで次第に野球が好きになりました。理由はまず何人かの選手の子どもは私の生徒になりました。その上、タイガースのサポーターは私のサッカーチームAtletico de Madridのサポーターとよく似ています。言葉は違うがnever give up!の精神を持ちReal Madridに勝ってはリーグ戦に勝つよりバンザイ！です。（Real MadridはAtleticoのサポーターから見ればスペインの巨人軍です）。

しかし、日本に来て一番の大きな発見は子どもの教育でした。日本の子どもはスペインの子どもとまったく同じであり、透明、純粋そのものです。大人は私に“先生、日本語お上手ですね”と言いますが、授業に入ると子どもたちは“先生！日本語下手ですね！耳が大きい宇宙人みたい！”などと発言します。嘘を云う世界は大人のものです。子どもは嘘を云う時には不自然になり、すぐにバレます。中学生になるとだんだん幅が広くなる。スペイン人はもっと個人的であり自信たっぷり、日本人の倍以上に社会的な精神で回りの人々を批判したり、判断します。スペイン人は率直であり、日本人は慎重で慎み深いことです。中国人と日本人はどこが違う？中国人の友達に尋ねると“一人の中国人対一人の日本人なら中国人の方が勝ちます。二人対二人なら日本人が勝ちます”と答えました。

日本人の信仰

自然を愛し、人生はとても美しく神秘的なものという考えは日本人の昔からの考え方によく云われます。桜の花はきれいが花の時期は短い存在です。先祖を尊敬し、愛するものは決して死がない、水子など失った無邪氣

な命への悲しみは神秘的です。掃除、和食、日本の庭、武士道、人と自然の間の調和も魅力的です。技術の細やかさと仕上げは日本の侍精神を良く現わしています。

小事が大事。英雄の道は毎日の小さな努力にあると云います。礼儀の正しさ、折り紙、陶器、映画、建築などに日本人の心の素晴らしいさを見ることが出来ます。世界に知られた映画監督黒沢明と建築家安藤忠雄の見事な作品は日本の現代の文化の典型です。スペインのアントニオ・ガウディが日本人の間に人気があるのがよく分かります。彼も自然を愛し普遍的な信仰を持っていた人間でした。

日本人の度量の広さは応用と想像力、文化の融合に特に現れています。これは外国から受けいれたクリスマスやバレンタインの祝い、梅若先生のクリスマス（御誕生日）能、まつげんサンバなどさまざまの例があります。社会的な活動のボランティアや青年団体（ボーイスカウト）なども日本人の文化の融合の能力の現れだと思います。私は一番美味しいスペインのオムレツは日本で食べました。日本で外国の友達と洋食を食べた時、私の国より美味しい！と聞くことが何回かありました。やはり、オリジナルよりコピーが優れていることがあります。
日本の伝統を忘れないで

世界の本当の遺産は人間であることを日本人はよく理解しています。人間国宝は明らかな例です。日本人は立派な民族である事を意識して今の物質的な社会の中で魂を守るためにバランスをとることがとっても必要なことです。

新しい世代に伝える

自分の国の同一性を失わないように伝統の偉大さを理解することが大切です。留学やボランティア活動により感謝と寛大な心を育て欲しいと思います。今の時代には頂くより与える方が幸せです。または物を持つよりも「どんな人間」であるかが大切です。ボランティア活動のために学生を連れて二回フィリピンに行きました。日本の学生達はその国の貧しさと同時に地元の人たちの喜びと暖かさを見て驚きました。苦労しながら連帯と友情の魅力が解かりました。帰ってから母国や家族を新たな見方で見ることになりました。日本はきれいですね！と云われて驚いたり、今まで家に帰って食事を頂くことが当前で無関心の態度であった学生が「お母さん有難う！」という感謝の言葉が出て来る学生を何度も見てきました。日本で学生を連れて老人ホームを訪問すると結果はフィリピンのWORK CAMPと同じです。頂くより与える方が幸せです。若者の奉仕の仕事の倍以上に老人たちは若者たちに色々と教えてくれました。まだ老人達は生きるのは役に立つことであることを体験してとても喜んでいました。目に涙を一杯にためて「また来てね」と叫んだおじいさんやおばあさんの姿を何回も見ました。

仕事と家庭の両立

家庭は教育の土台であり、子どもは社会の希望です。子ども達の最小で一番偉大な学校は家庭です。主婦の仕事はとっても大切なものです。女性は外で働くことは良いことですが、主婦の仕事を過小評価してはなりません。家庭生活を育てるためにお母さん達は医者、経済学者、心理学者などにならなければなりません。主婦業はとっても難しいが価値のある仕事です。仕事は道であり目的ではありません。家庭を支える幸せな生活のためにあります。お父さん達もこれを理解し子どもは自分の一番の“商売”であることを認めて奥さんとともに子どもを育てなければなりません。家庭は仕事と同じように大切にしなければなりません。仕事より家庭を優先しなければならない場合があります。現在の不安定な社会は不安定な家庭の結果です。お父さん達はできるだけ早く仕事を終わって奥さんと子ども達と時間を過ごすことができるよう努めてください。幸せな家庭のためにはコミュニケーションがとっても必要です。テレビやパソコンや携帯の時代ですから負けないように英雄的な努力が必要かも知りませんが実際には毎日の小さな戦いの問題です。例えば帰ってから疲れても微笑んで不平を言わないこと、奥さんの料理をほめる、子どもは何か尋ねると新聞を横にしてよく聞くことなどが毎日の訓練です。もちろん結婚記念日など忘れないでください。その日奥さんのために花を買ったり、外でdinnerを食べると互いに満足するでしょう。日本の会社も自分の部下の状況をよく考え、皆さんの家庭を応援しなければなりません。幸せな家庭を持つ人は元気でもっと効果的な仕事ができます。家庭を守ることは会社の利益になります。

子どもを遊ばせる

子どもの義務は勉強だけでなく遊びも子どもの仕事です。小さいとき遊ばないと必ず大人になると遊人になります。一緒に遊ぶために時間を取りたり、知り合の子どもと共に遊ぶこともできるような機会を作ったり、またできれば兄弟や姉妹を与えましょう。

社会の一番優れた遺産は人間

「社会の一番優れた遺産は人間」日本人はこの言葉をよく理解して家庭をとても大切にしてきました。今まで日本の社会はとっても平和的だったが最近は不安定になっています。それでもアメリカやヨーロッパと比べるとまだまだ全です。西洋の失敗から学んで自分の伝統としっかりした家庭を守りましょう。

日本ありがとう！

世界遺産見学バスツアーのご案内

嵯峨野・上賀茂

今年は世界文化遺産の天龍寺と上賀茂神社を寺院と神社の対比として、人文科学な面から検討致します。

天龍寺は1339年建立の臨済宗天龍寺派の本山で、足利尊氏が後醍醐天皇の菩提を弔うために創建した禅寺です。その莫大な運営費をまかなう為に、天龍寺船を建造し、貿易で得た利益をこれに当てました。

上賀茂神社は祭神が賀茂別雷(かもわけいかづち)の神で、古代の京都で大きな力を持っていた賀茂氏の祖先を祀る神社で、伏見稻荷大社と並ぶ京都で最も古い神社の一つです。社殿は677年(天武天皇6年)に造営され、800~1200年の間は伊勢神宮と同じく斎宮が立ちました。境内は国宝2棟、重文34棟が点在します。ご期待下さい!

参加希望者は、2月末までに別紙申し込み用紙に必要事項ご記入の上、事務局宛てFAXにてお申し込みください。尚、詳細は3月末までに、担当役員よりご連絡をさせていただきます。

〈世界遺産ミニクイズ〉

Q: 世界遺産の数は世界中にいくつあるでしょうか?

A: 世界遺産は812あります。

内、文化遺産が628、自然遺産が160、文化と自然との複合遺産が24あります。

第62回日本ユネスコ運動全国大会(岩手大会)のご案内

2006年6月3日(土)、4日(日) 花巻にて開催



2006年度は、一人ひとりが尊重され、平和な世界を求める事を基底テーマとし、「考えていますか」となりのひとを」へ平和と共生の明日に向かって~を大会テーマとして、有名な花巻温泉の地にて開催されます。前国際日本文化研究センター所長の山折哲雄氏による基調講演「文明の共存を考える」を始め、「平和と共生の明日に向かって、そして国際理解」というテーマでのパネルディスカッション、民間ユネスコ活動の理解に繋がる分科会など、興味深い内容でお出掛けになっただけの充実感は得られることと思います。

会員の皆様のお手元にご案内パンフレットが機関紙「ユネスコ」に同封されて届いていることと思います。今現在すでに数名の参加者がありますが、一人でも多くの方とご一緒させていただきたいと思いますので、是非お誘い合わせの上お申込みいただきますよう、ご案内申し上げます。

☆申し込み締め切りは4月5日です。申し込みは直接大会受付先へのFAX送信となります。芦屋ユネスコ協会事務局にもお申し込みをされました旨、ご報告いただきましたら幸いです。

委員会報告とお知らせ

事業部会

◇年間を通じた書き損じ葉書の回収活動を軸とし、協会の活性化の為の活動を検討中です。

交流部会

◇会員間の交流の一つとして世界遺産巡りバスツアーの企画を行っています。

今年のご案内は5頁に掲載。同封別紙申し込み用紙にて奮ってお申し込み下さい。

育成部会

◇芦屋図書館友の会との共催で、11月26日に「世界遺産を知ろう(日本編)」を行いました。

各部会ともお手伝いくださる方を募っています。興味本位でも結構ですので、是非名乗りを上げてください。また、いいアイデアやご希望・ご意見などもどしどしお寄せ下さい。

協調連携団体報告

レディス・セミナーハウス

<例会開催報告>

◇2004年1月17日 落語家の笑福亭三喬様と笑福亭喬若様による『寄席の獅子舞』と落語。

<例会開催予告>

◇2004年2月21日 井植豊子様 「おしゃれな家庭生活を楽しむ」
(ガーデンデザイナー、インテリアデザイナー、ライフデザイナー)

事務局連絡

<(社)日本ユネスコ協会連盟事務局よりの通達文> (2006年1月10日付)

世界遺産活動の新たな広報協力について

2004年8月、NHKはUNESCOと「世界遺産デジタルアーカイブに関する協定」を結び、世界遺産の記録事業への協力を開始しました。この事業の一環として、2005年4月からNHK番組「世界遺産100」が総合テレビで放送されていますが、この度、日本ユネスコ協会連盟が実施する世界遺産活動にも広報のご協力をいただくことになりました。

具体的には1月14日(土)以降3月末まで、毎週土曜日に放映される「世界遺産100」(午後8時40分~45分)の最後の40秒で「現在、日本ユネスコ協会連盟は危機遺産救済の為、募金などの活動を行っています」というアナウンスとともに、お問合せの電話番号(03-5424-2017)が画面上に表示されます。また、毎日新聞社等、他のメディアもNHKと共同で日本ユネスコ協会連盟の世界遺産活動の広報に協力していただきます。

私たちの世界遺産を守る活動がより多くの日本国民に周知されるとても良い機会を戴きましたことをご報告申し上げます。

編集後記: 今回は寄稿があり、嬉しい悲鳴を上げました。投稿、感想など隨時受け付けておりますので、どしどしお寄せ下さい。次回からは編集スタッフが増えるますので、どうぞご期待下さい。